

---

# 2008年度 上期決算説明会

2008年11月6日



---

# I . 2008年度 上期決算概要 及び2008年度通期見通し

## II . 個別事業について

### ※本資料に関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、本日決算説明会日時点で入手可能な情報に基づくものであり、市況、競合状況等、多くの不確実な要因の影響を受けます。したがって、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

# ●上期決算(前年同期対比)

(百万円)

	08年上期	07年上期	差異
売上高	21,708	21,911	(×)203
営業利益	5,209	7,146	(×)1,937
経常利益	5,101	7,002	(×)1,901
当期純利益	2,948	3,968	(×)1,020

# ●セグメント別売上高

(百万円)

	08年上期	07年上期	差異
金属チタン事業	16,196	16,965	(×)769
機能化学品事業	4,648	4,269	(○)379
(触媒製品)	(3,113)	(2,771)	(○)342
(電子部品材料)	(1,535)	(1,498)	(○)37
その他事業	863	676	(○)187
合計	21,708	21,911	(×)203

# ●セグメント別営業利益

(百万円)

	08年上期	07年上期	差異
金属チタン事業	5,332	7,208	(×)1,876
機能化学品事業	1,176	967	(○)209
(触媒製品)	(1,049)	(971)	(○)78
(電子部品材料)	(126)	(▲3)	(○)129
その他事業	16	▲19	(○)35
消去又は全社	▲1,315	▲1,010	(×)305
連結	5,209	7,146	(×)1,937

# 貸借対照表

(億円)

	08年 9月末	08年 3月末	差異	主な内訳
(資産の部)				
流動資産	223	211	12	
固定資産	486	334	152	設備投資174、償却▲20
資産の部合計	709	545	164	
(負債の部)	336	193	143	
借入金	259	90	169	長期+114、短期+55
その他負債	77	103	▲26	未払法人税等▲15
(純資産合計)	373	352	21	純利益29、配当▲9
負債・純資産合計	709	545	164	
自己資本比率(%)	52.5	64.5	▲12.0	

# 2008年度見通し

(百万円)

	08上期	08下期 見通し	08年度 見通し	07年度	差異
売上高	21,708	24,092	45,800	44,904	(○)896
営業利益	5,209	3,391	8,600	13,752	(×)5,152
経常利益	5,101	3,099	8,200	13,312	(×)5,112
当期純利益	2,948	2,152	5,100	7,783	(×)2,683

	06年度	07年度	08年度(予定)
配当金(円/株)	25.0	28.0	20.0(中間10.0)

# 🌐 セグメント別売上高

(百万円)

	08上期	08下期	08年度	07年度	差異
金属チタン事業	16,196	17,904	34,100	34,480	(×)380
機能化学品事業	4,648	4,752	9,400	8,786	(○)614
(触媒製品)	(3,113)	(3,187)	(6,300)	(5,744)	(○)556
(電子部品材料)	(1,535)	(1,565)	(3,100)	(3,041)	(○)59
その他事業	863	1,437	2,300	1,637	(○)663
合計	21,708	24,092	45,800	44,904	(○)896

# セグメント別営業利益

(百万円)

	08上期	08下期	08年度	07年度	差異
金属チタン事業	5,332	3,998	9,330	13,793	(×)4,463
機能化学品事業	1,176	614	1,790	2,010	(×)220
(触媒製品)	(1,049)	(471)	(1,520)	(1,923)	(×)403
(電子部品材料)	(126)	(264)	(390)	(86)	(○)304
(新規製品開発コスト)	( - )	(▲120)	(▲120)	( - )	(×)120
その他事業	16	144	160	106	(○)54
消去又は全社	▲1,315	▲1,365	▲2,680	▲2,157	(×)523
連 結	5,209	3,391	8,600	13,752	(×)5,152

# チタン生産量及び販売量

(単位:トン)

	08年 上期	07年 上期	差異	08年度見通し		07年度	差異
				下期	年度		
スポンジ生産量	7,234	6,948	286	7,222	14,456	14,176	280
スポンジ販売量	2,688	2,712	▲24	2,603	5,291	5,407	▲116
展伸材向け	1,537	1,472	65	1,462	2,999	2,980	19
鉄鋼添加材向け	1,151	1,240	▲89	1,141	2,292	2,427	▲135
インゴット販売量	4,575	4,605	▲30	5,835	10,410	9,132	1,278
販売量合計	7,263	7,317	▲54	8,438	15,701	14,539	1,162
(内数 外部原料出)					(2,877)	(1,042)	1,835

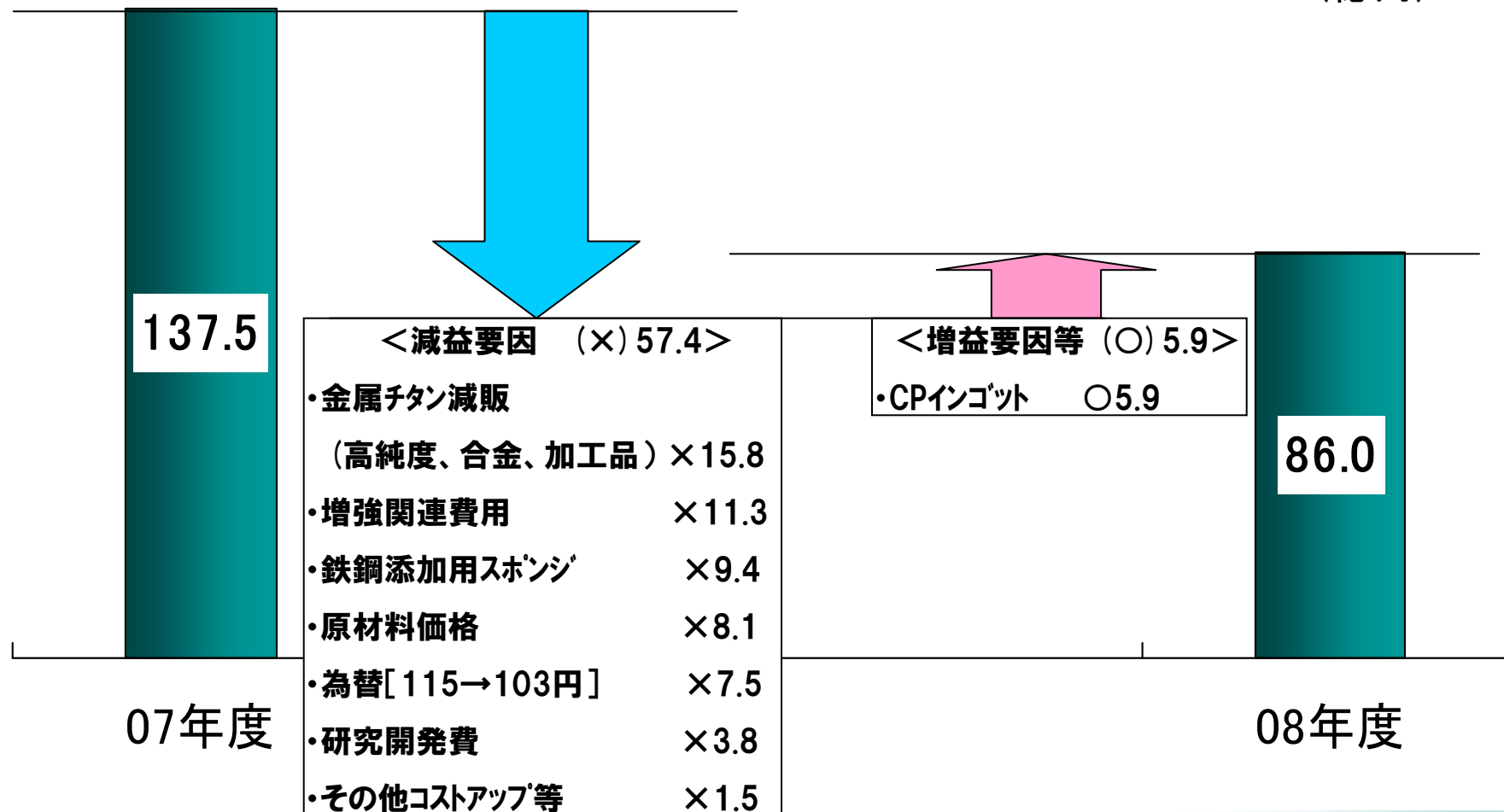
# 機能化学用品事業

(単位:トン)

		08年 上期	07年 上期	差異	08年度見通し		07 年度	差異
					下期	年度		
機能化学用品事業	触媒製品	68	65	3	72	140	134	6
	電子部品材料	429	503	▲74	398	827	983	▲156
		85	59	26	98	183	125	58

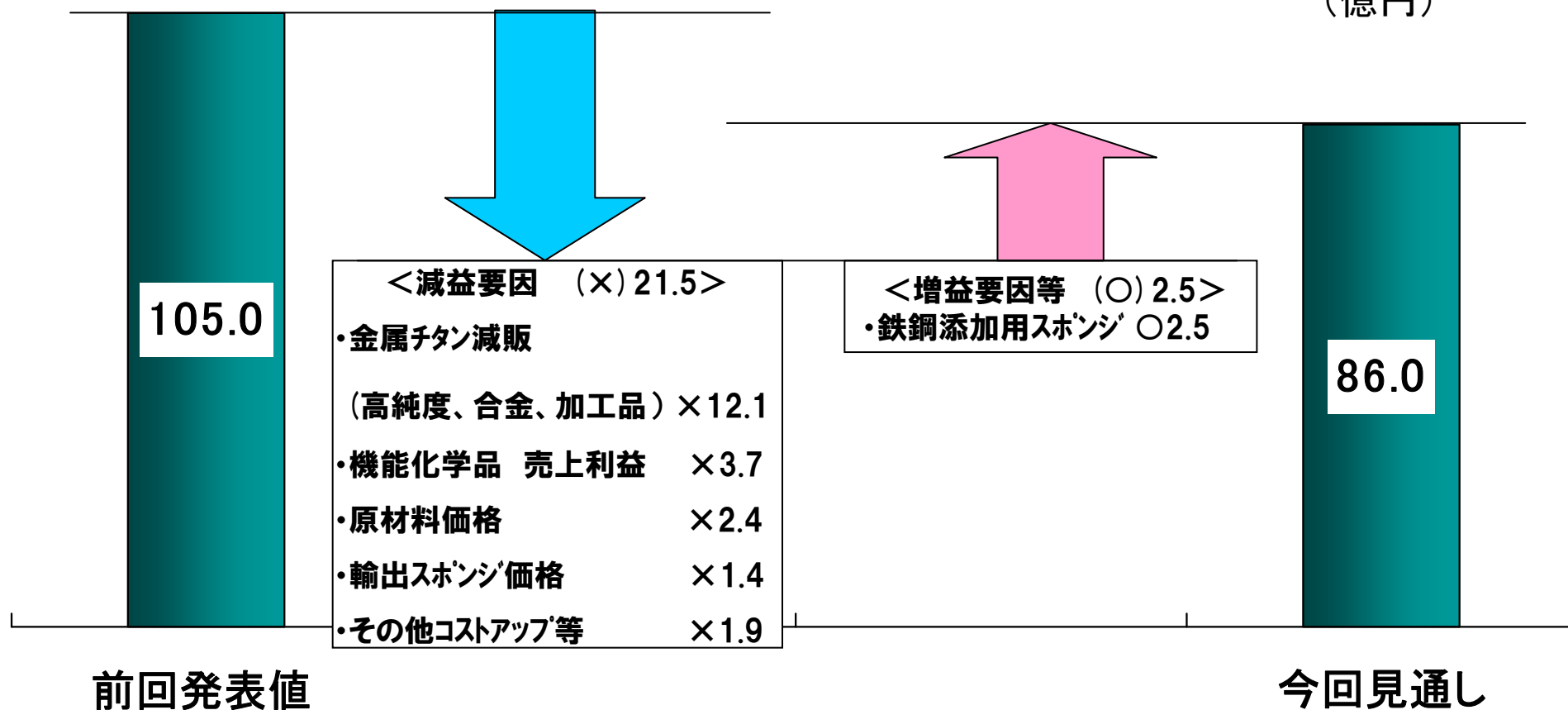
# ● 営業利益 08年度 対07年度

(億円)



# ● 営業利益 08年度 今回見通し 対前回

(億円)



---

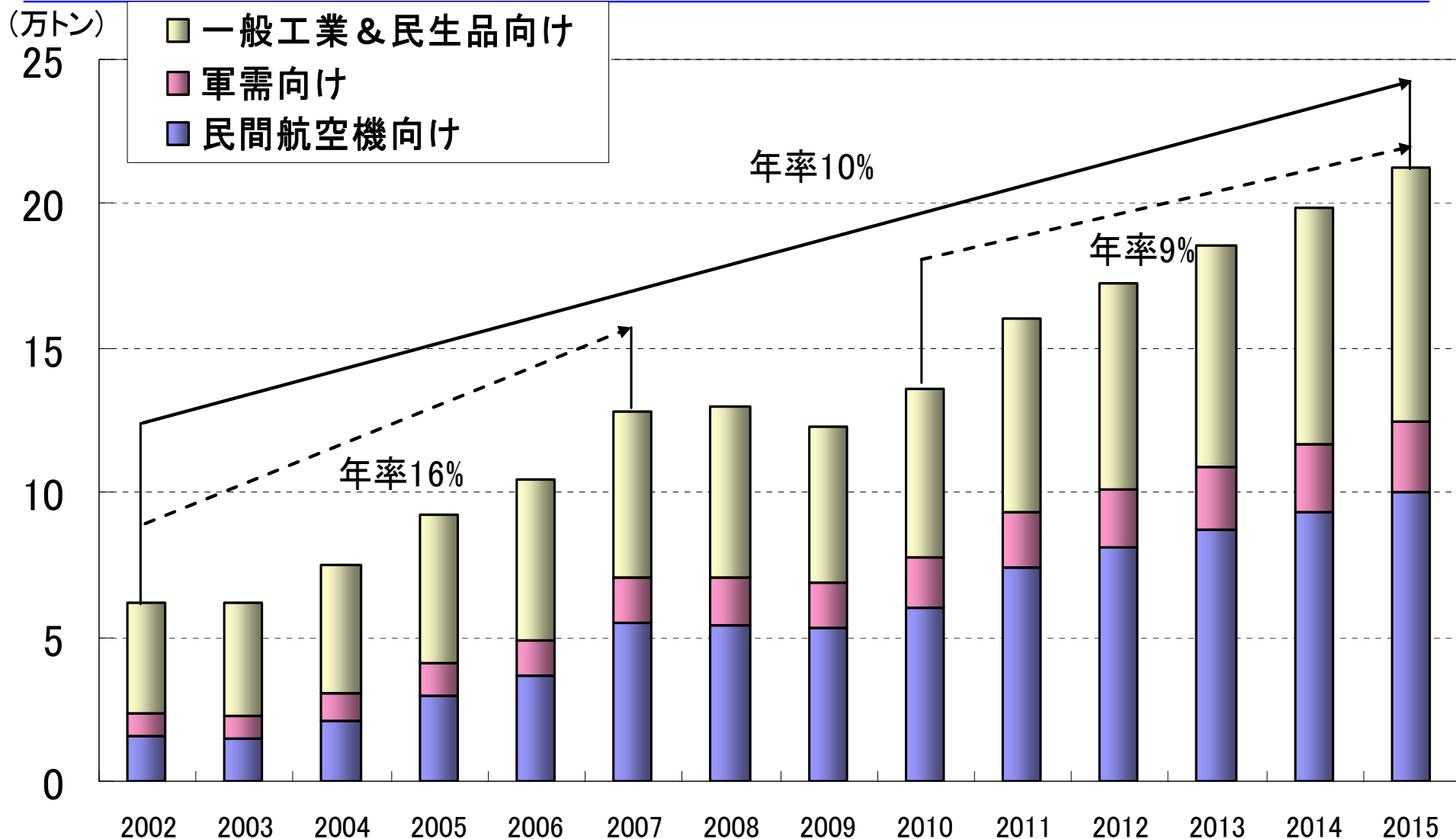
## Ⅱ. 個別事業について

チタン事業  
機能化学品事業  
(触媒・電材)  
ポリシリコン事業

# チタン事業環境

- 金融危機→世界経済の悪化。
- ボーイングB787の納入遅延、ストライキ。
- 造船、電力向け需要は堅調。
- 世界的なチタン生産能力増強。
- リサイクル原料の利用技術と使用比率の向上。
- 原材料価格の上昇。

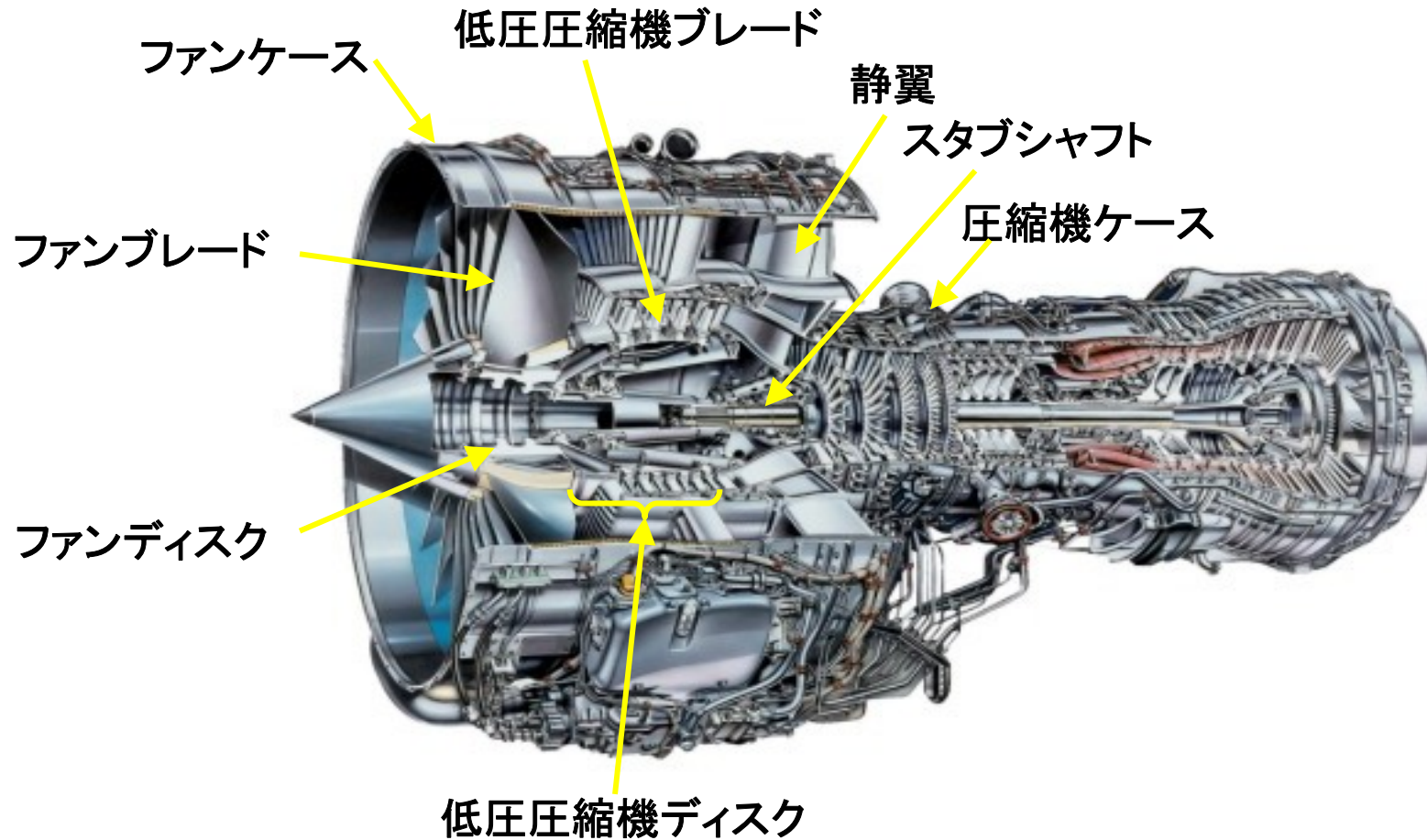
# 世界の展伸材用スポンジ需要予測 (当社推定)



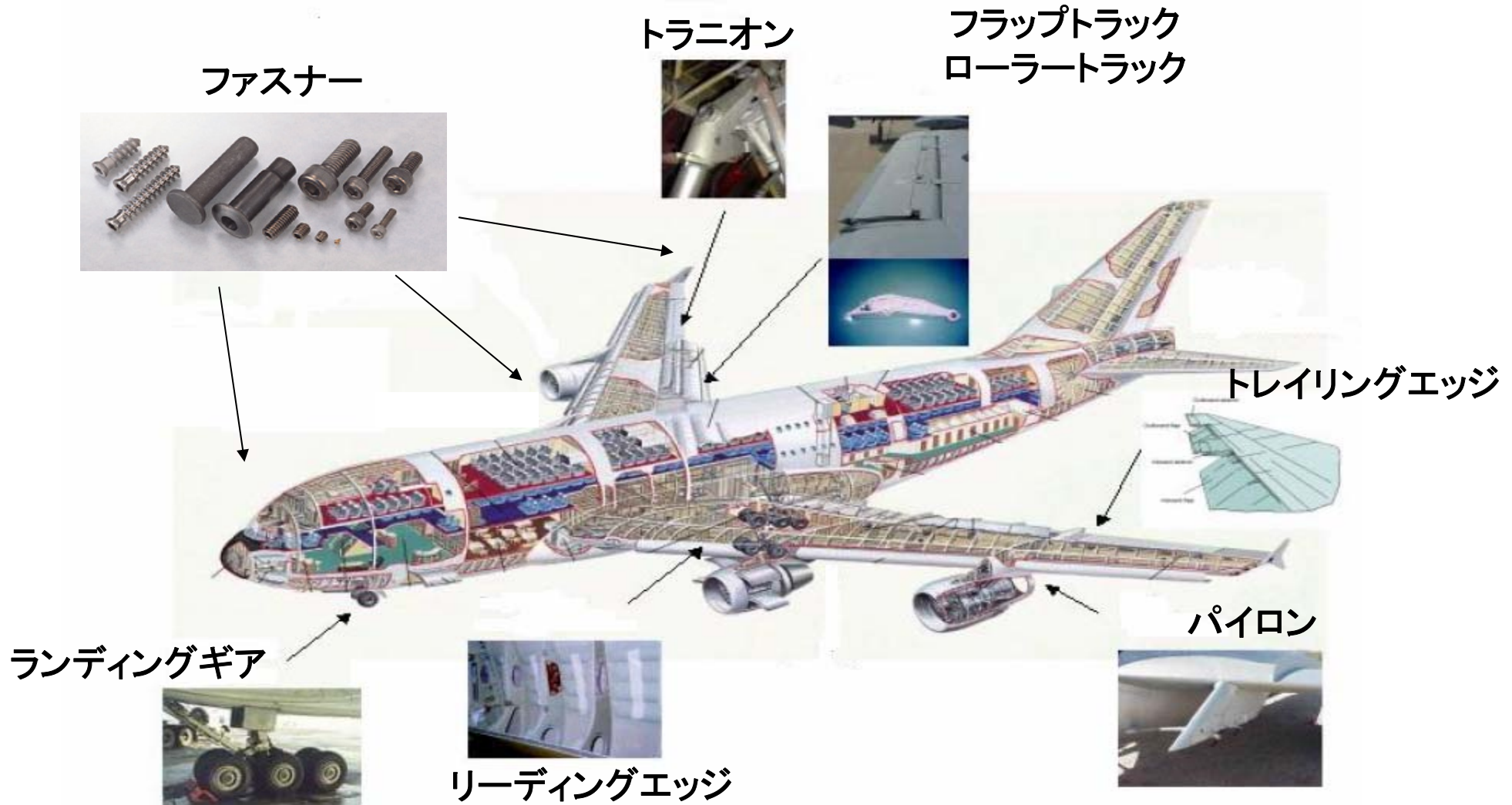
# 民間航空機 機種別チタン使用量 (Buyweight)

		機種 B : Boeing、A : Airbus	使用量(t)
民間航空機	従来機種	B737	18
		B767	8
		B747	48
		A300	16
	今後の主力機種	B777	80
		B787	136
		A380	146
		A350	101

# ●航空機とチタン（エンジン）



# 航空機とチタン (機体)



# ボーイング787引渡し遅延及びストの状況

遅延状況		初飛行	初引渡し
当初計画		07年8月～9月	08年5月
3回目	08年4月	08年10月～12月	09年7月～9月 09年引渡し数109機→25機

**9/6 ストライキ開始 → 11/2 ストライキ終結**

# 民間航空機 受注残

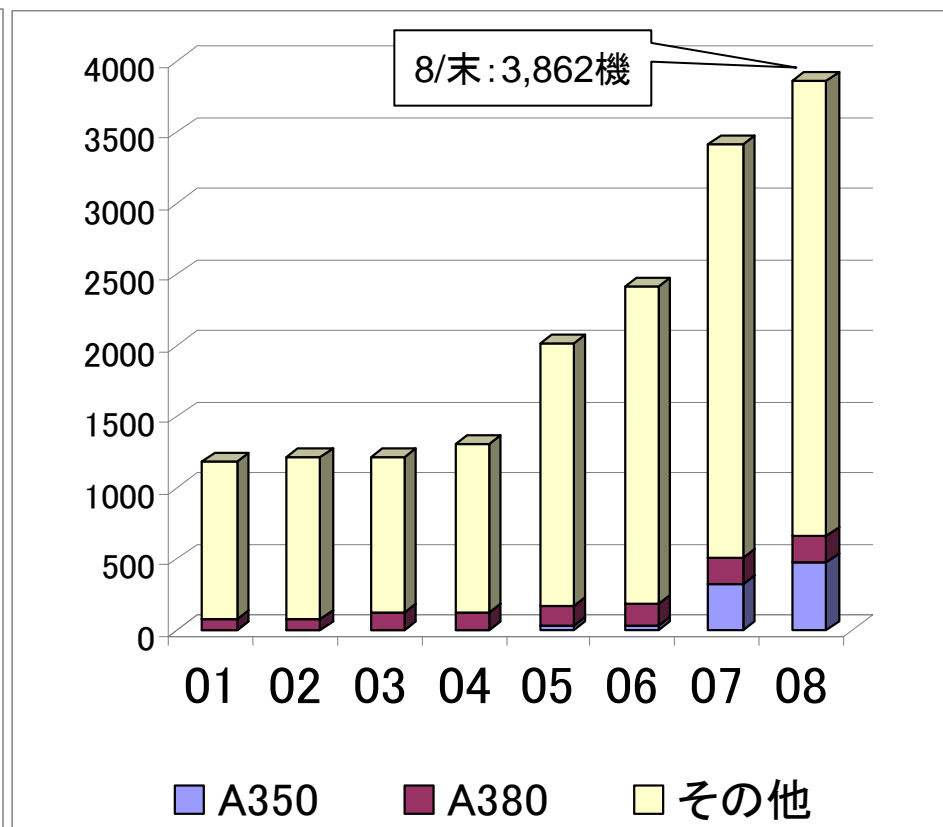
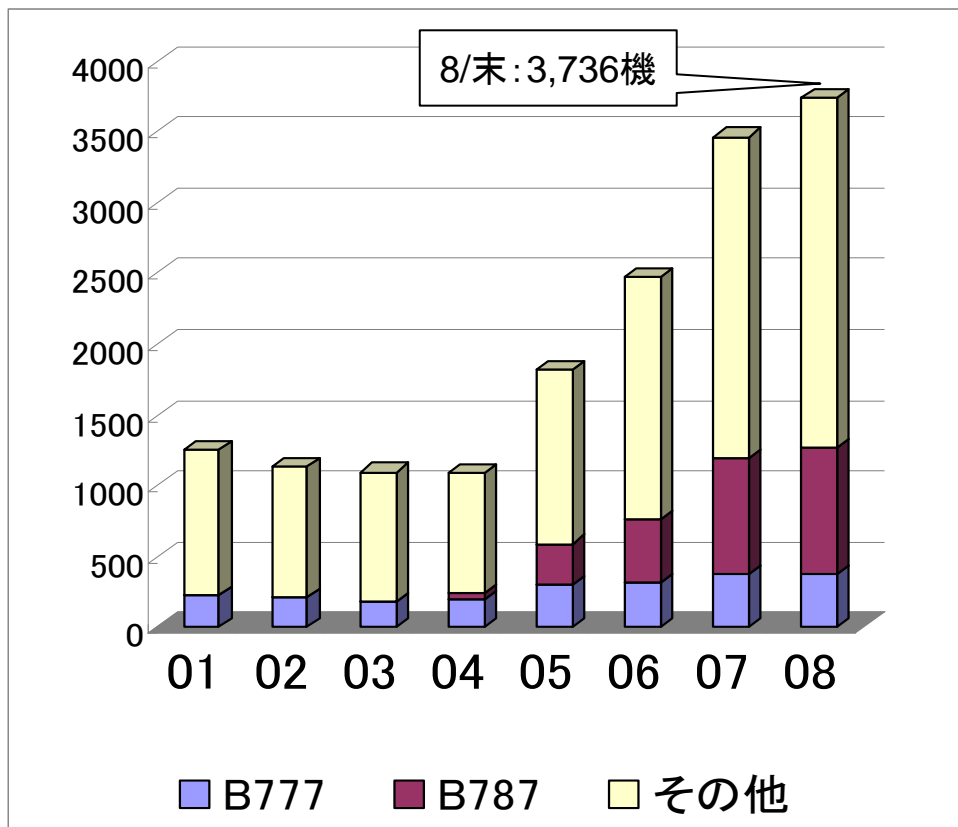
(Boeing社 & Airbus社)

08年8月末の受注残: 7,598機

07年の年間納入機数: 約900機

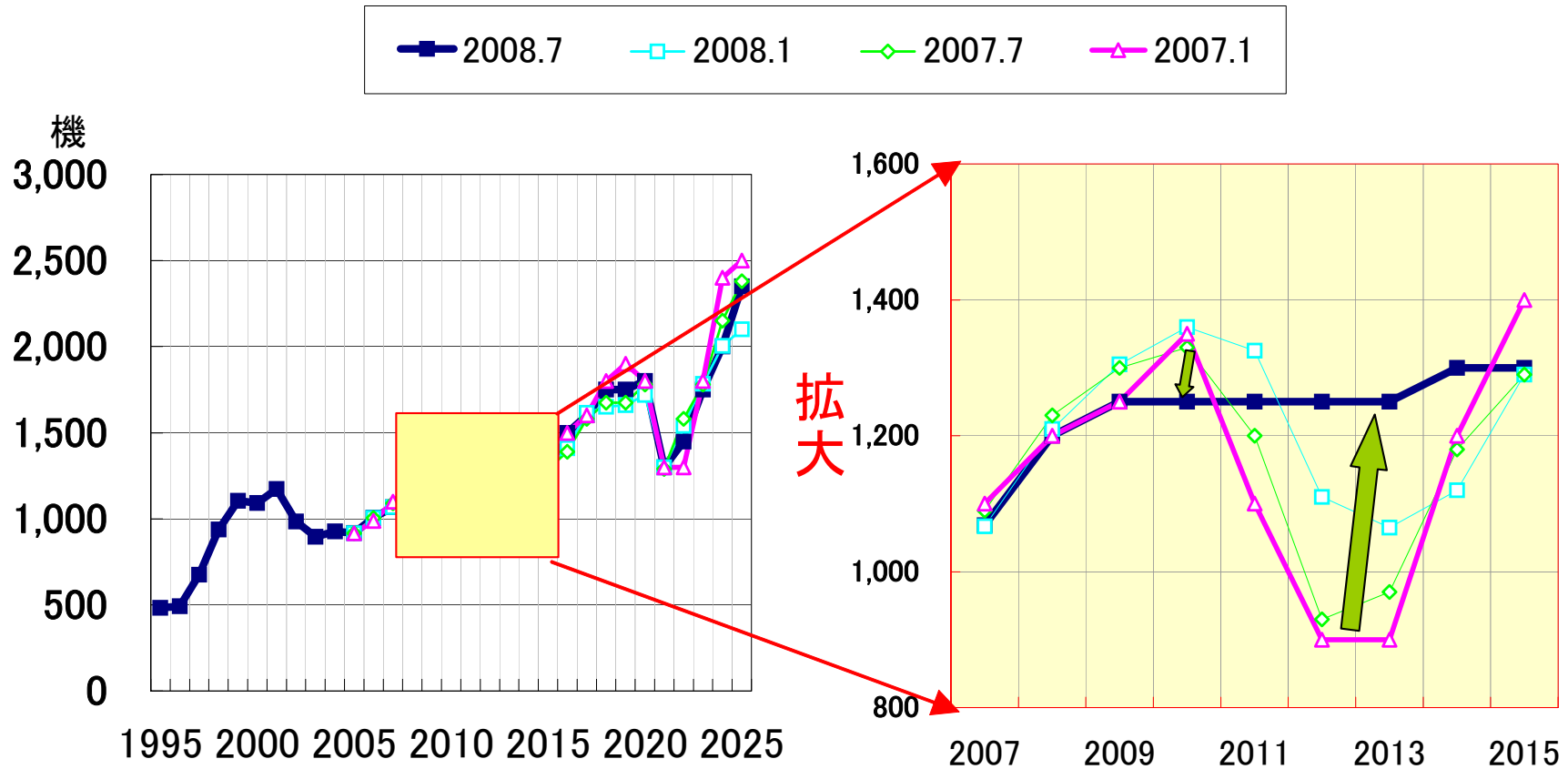
## Boeing社

## Airbus社



出典: (財)日本航空機開発協会 08:8月末現在 (単位:機)

# 民間航空機 納入機数予測 (出典: Airline Monitor)

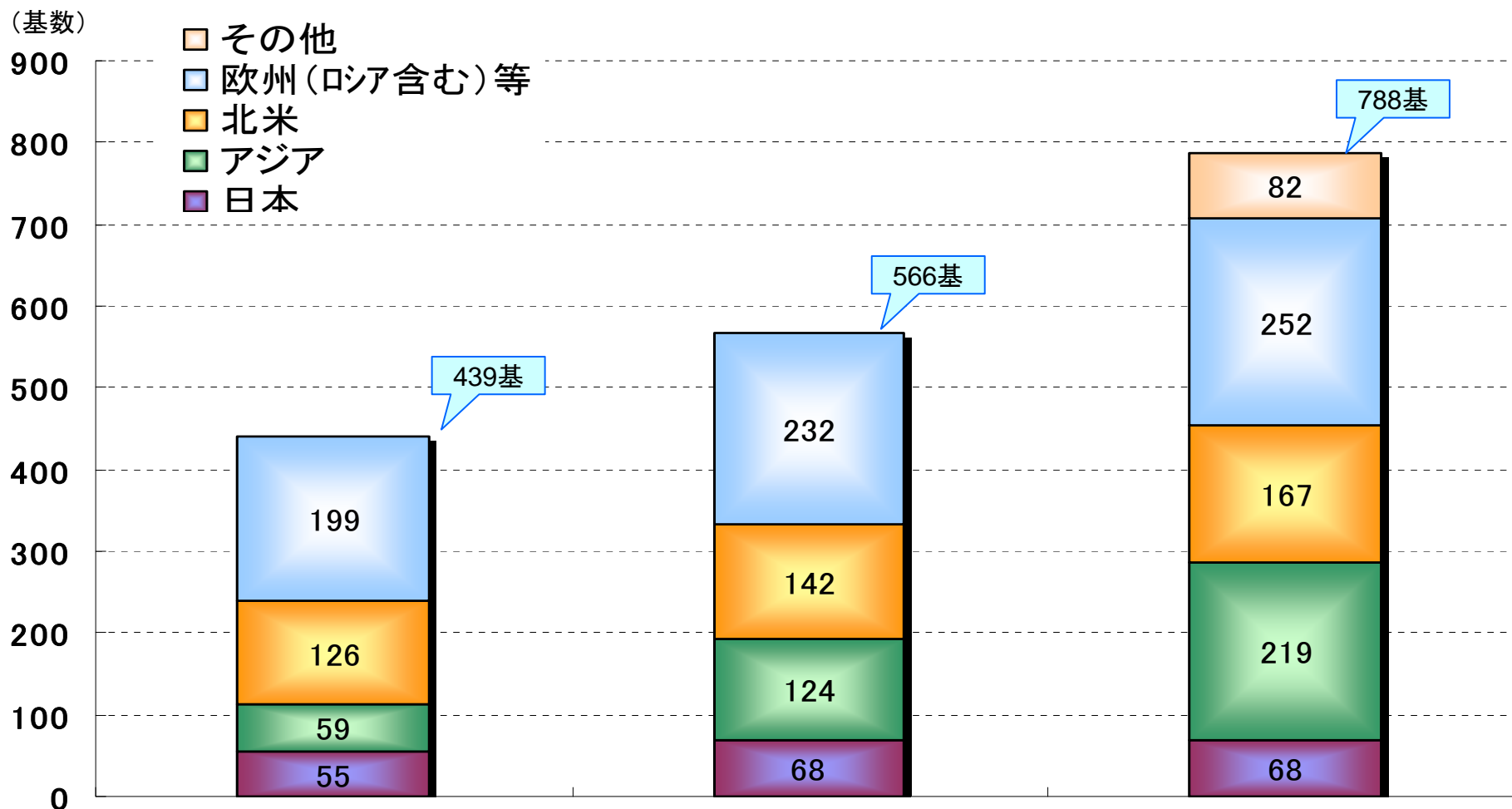


# 一般工業向け

対象	使用量	備考
海水淡水化プラント	約200～300トン*	通常、最大800トン
LNGプラント	約300～400トン*	
原子力発電所	約200～250トン	100万KW級
カセイソーダ電解プラント	約300～500トン	年産100万トン規模
テレフタル酸プラント	約30～50トン	年産10万トン規模
大型建築物の屋根	約5～50トン	九州国立博物館 浅草寺宝蔵門 等

出典：レアメタルハンドブック。但し、\*印は日本チタン協会

# 原子力発電の計画

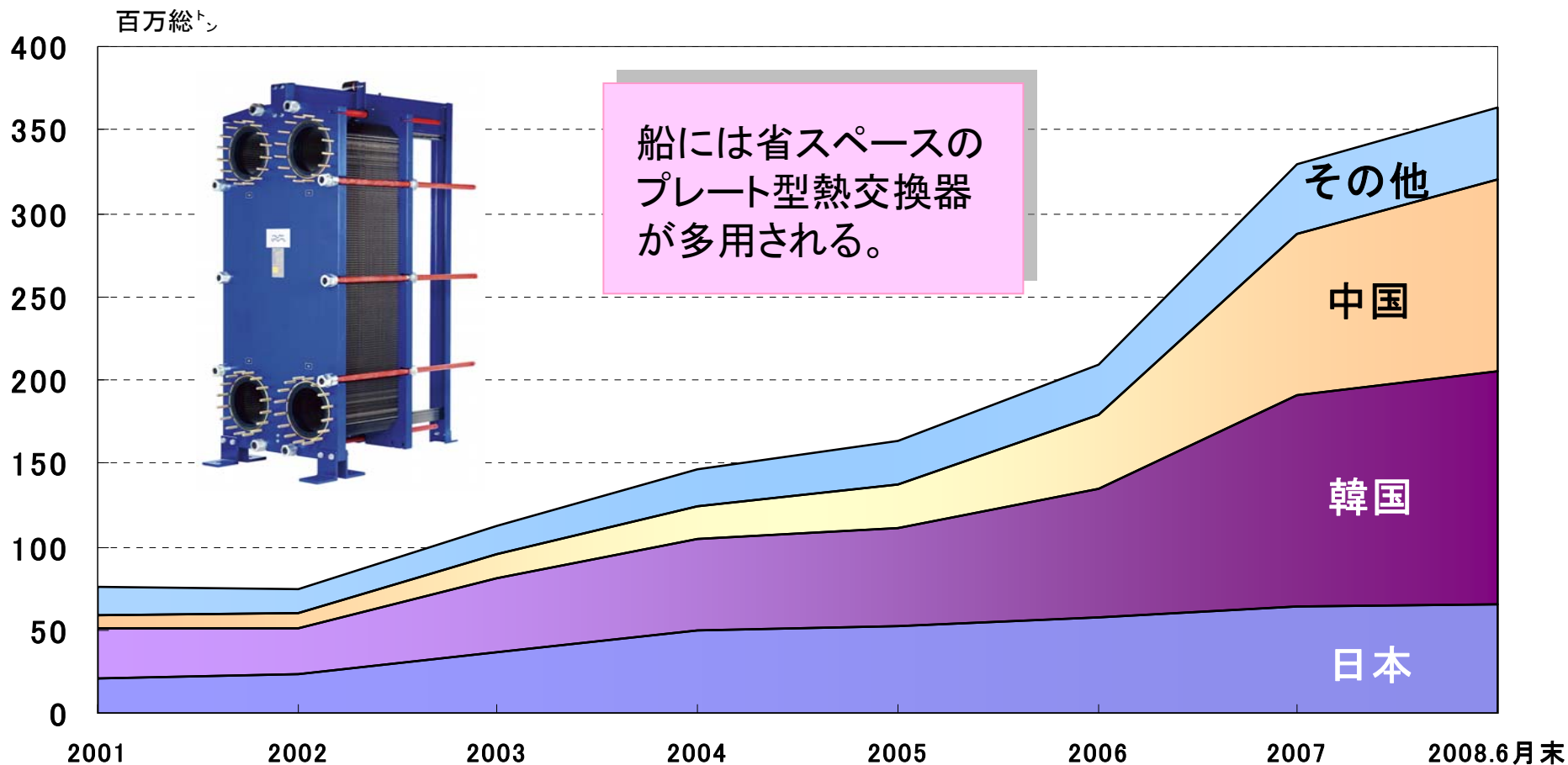


現状

現在+建設中・計画中

将来構想

# 世界主要造船国別受注残の推移

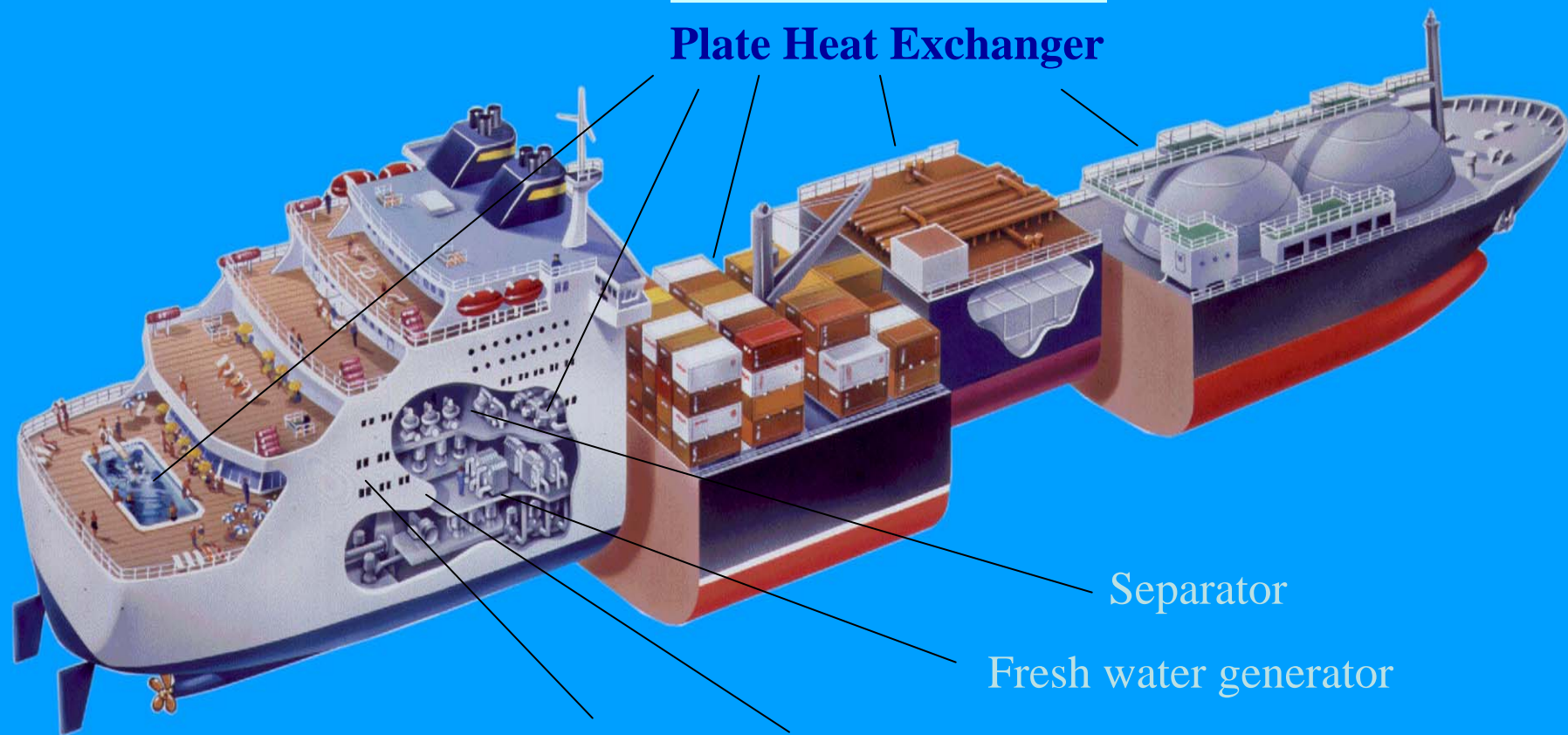


日本造船工業会統計資料より

# ● 船上のプレート式熱交換器

プレート式熱交換器

Plate Heat Exchanger



Separator

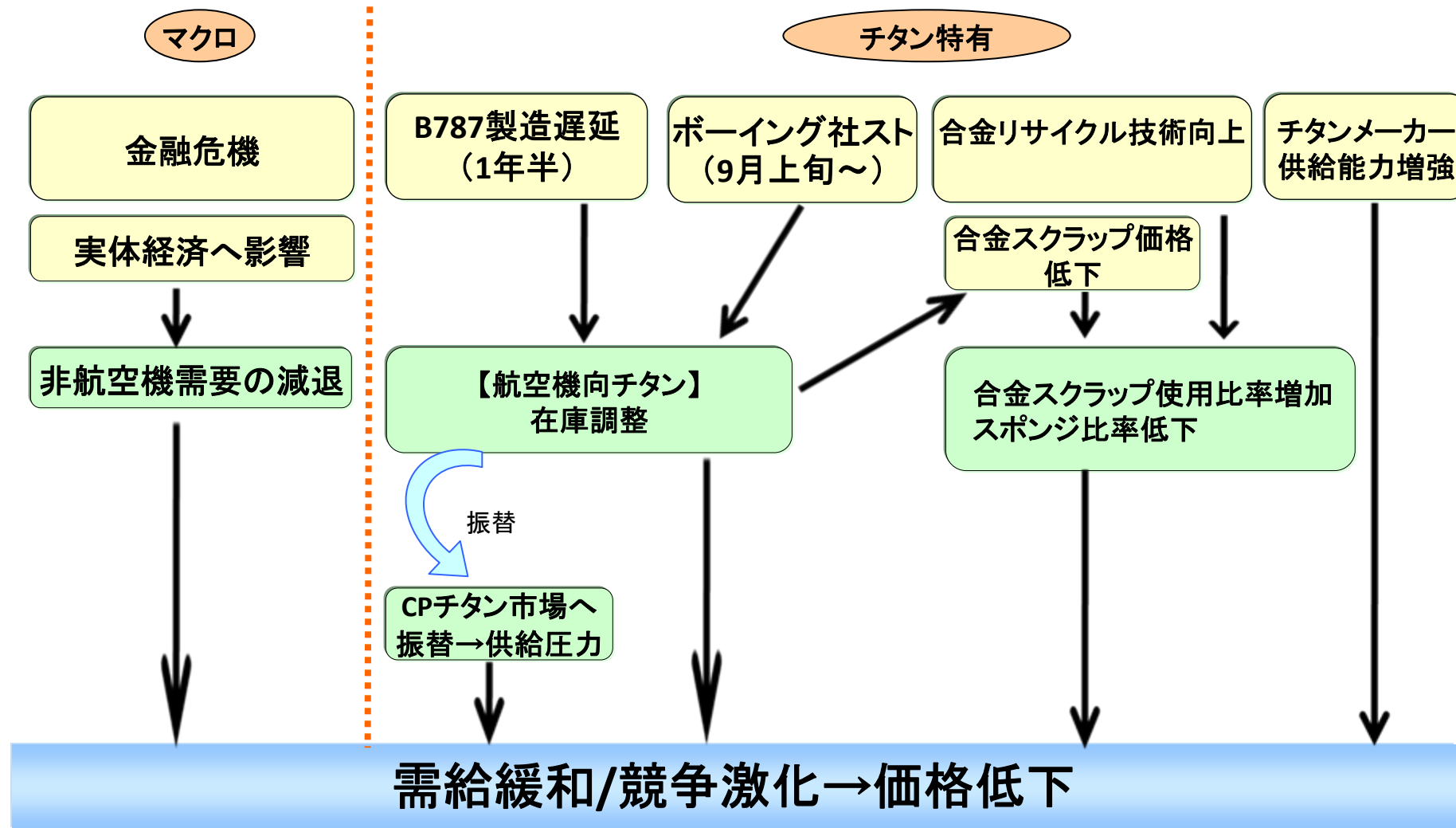
Fresh water generator

Filter

Fuel water module アルファラバル(株)提供

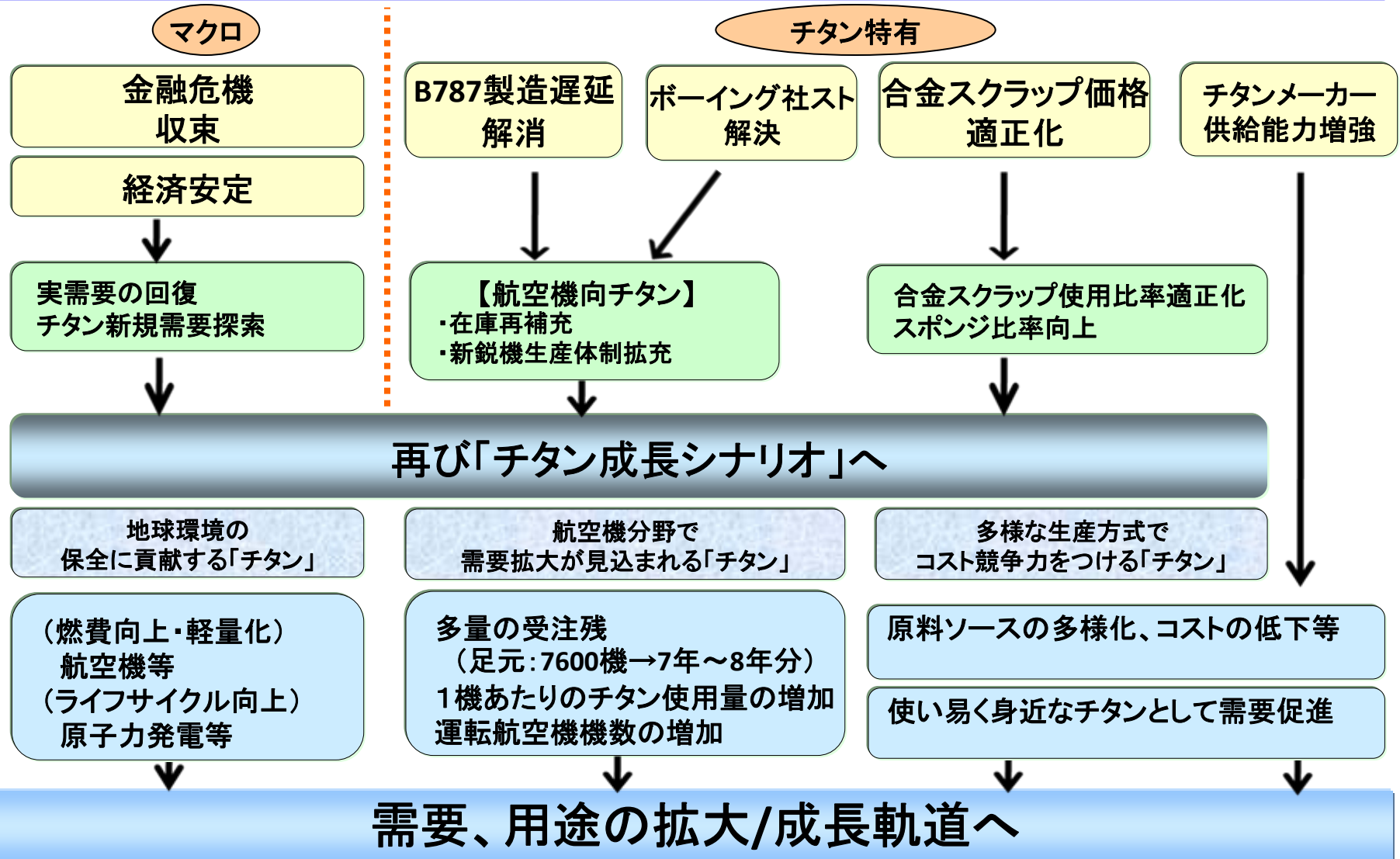
# チタン事業環境【短期の視点】

－需給緩和/競争激化－

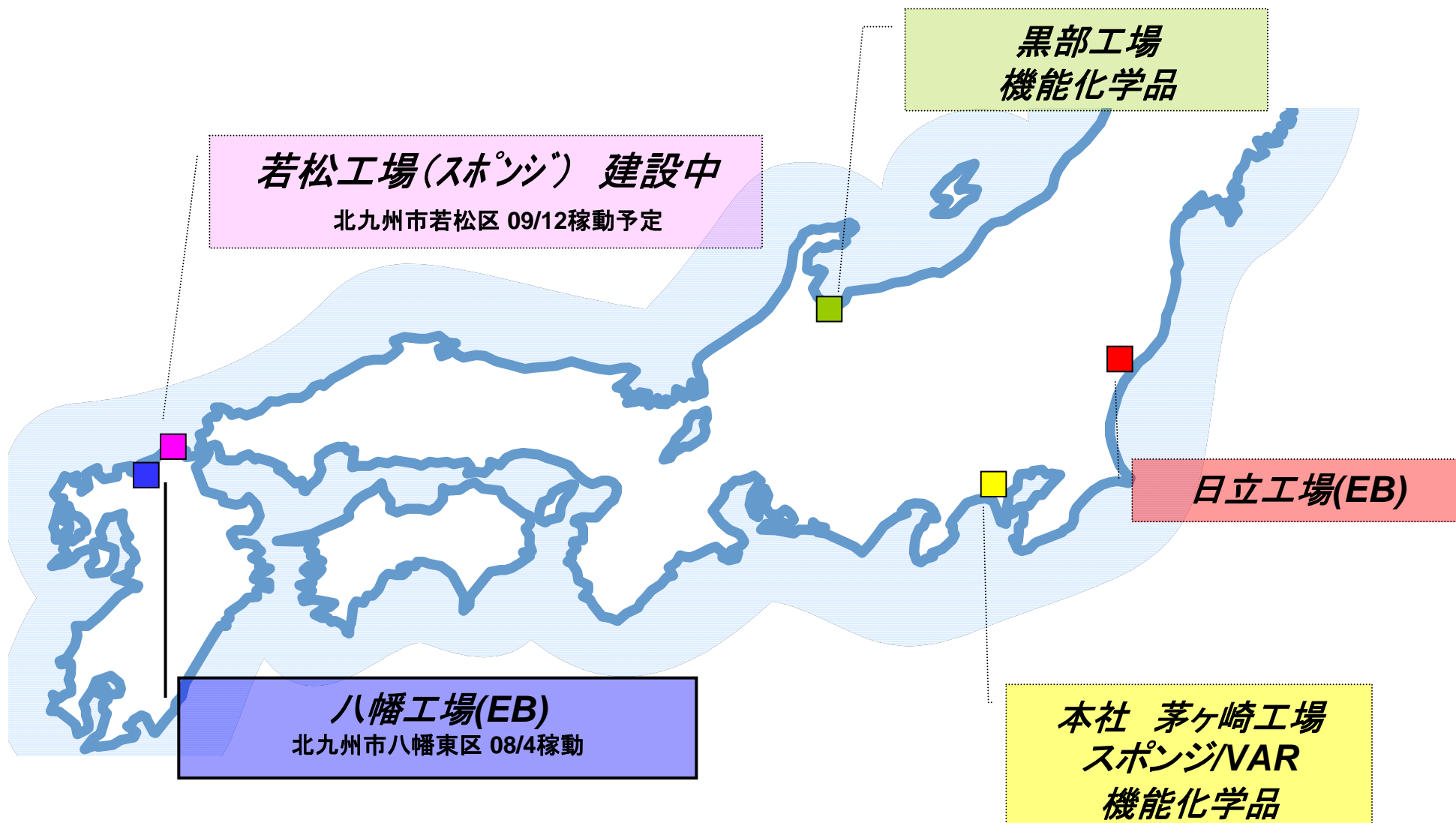


# チタン事業環境【中長期の視点】

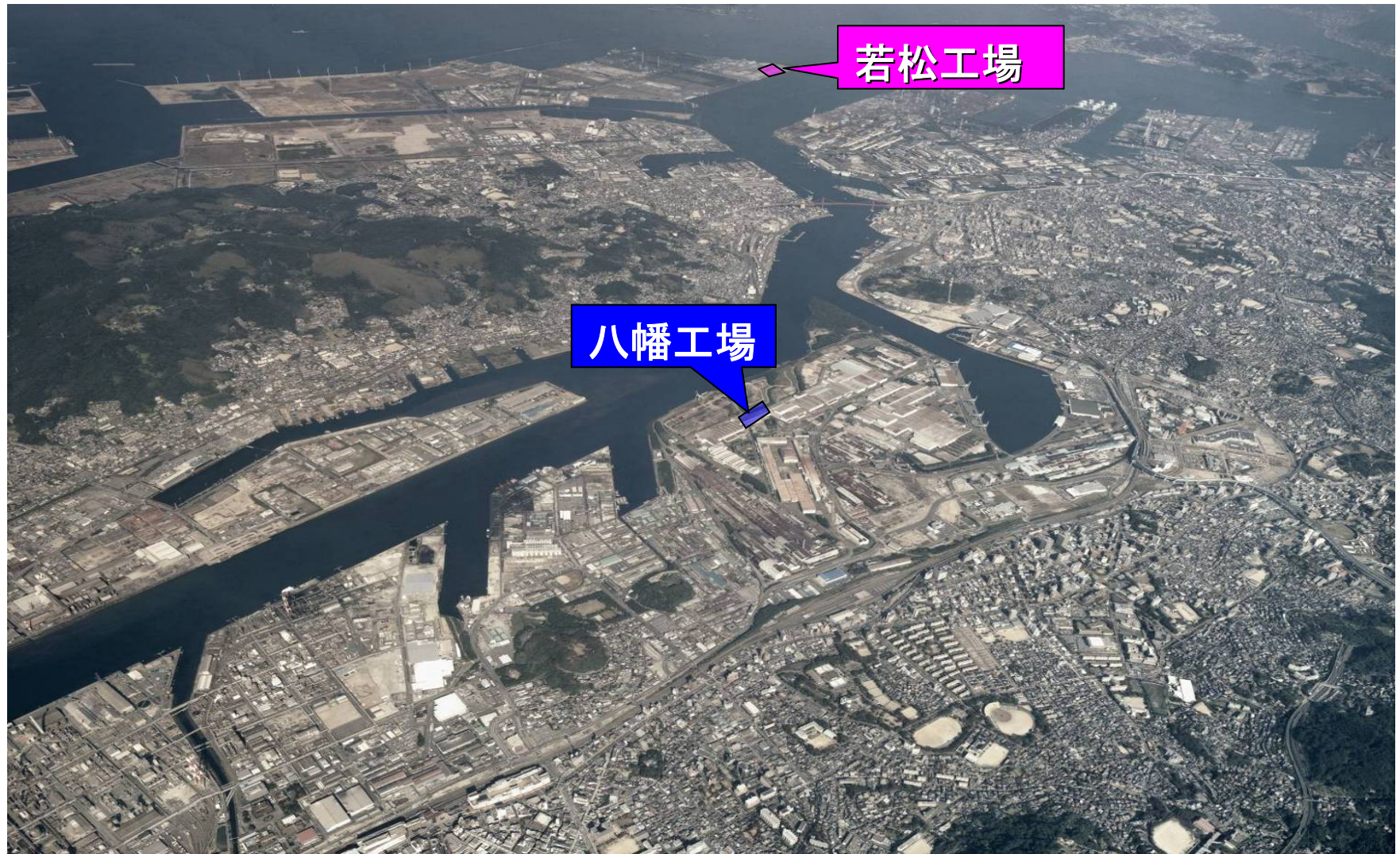
— 需要の回復・拡大/再び「チタン成長シナリオ」へ —



# 東邦チタニウム生産拠点



# ●若松工場－八幡工場 立地関係



# ● 若松工場

## ● 計画通り進捗

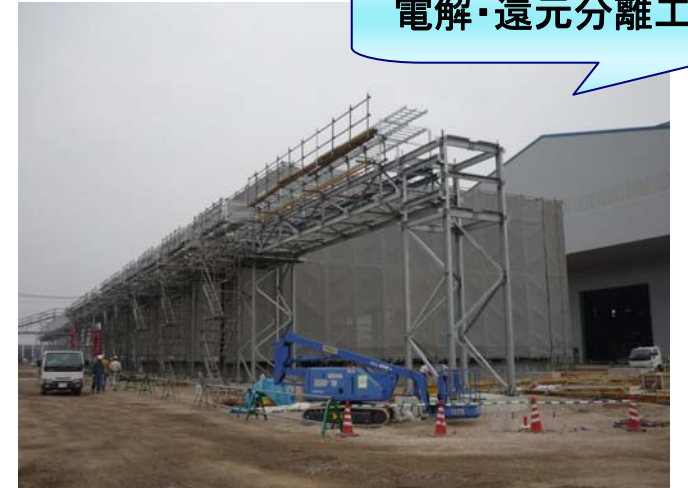


2008年10月末撮影

塩化工場



電解・還元分離工場

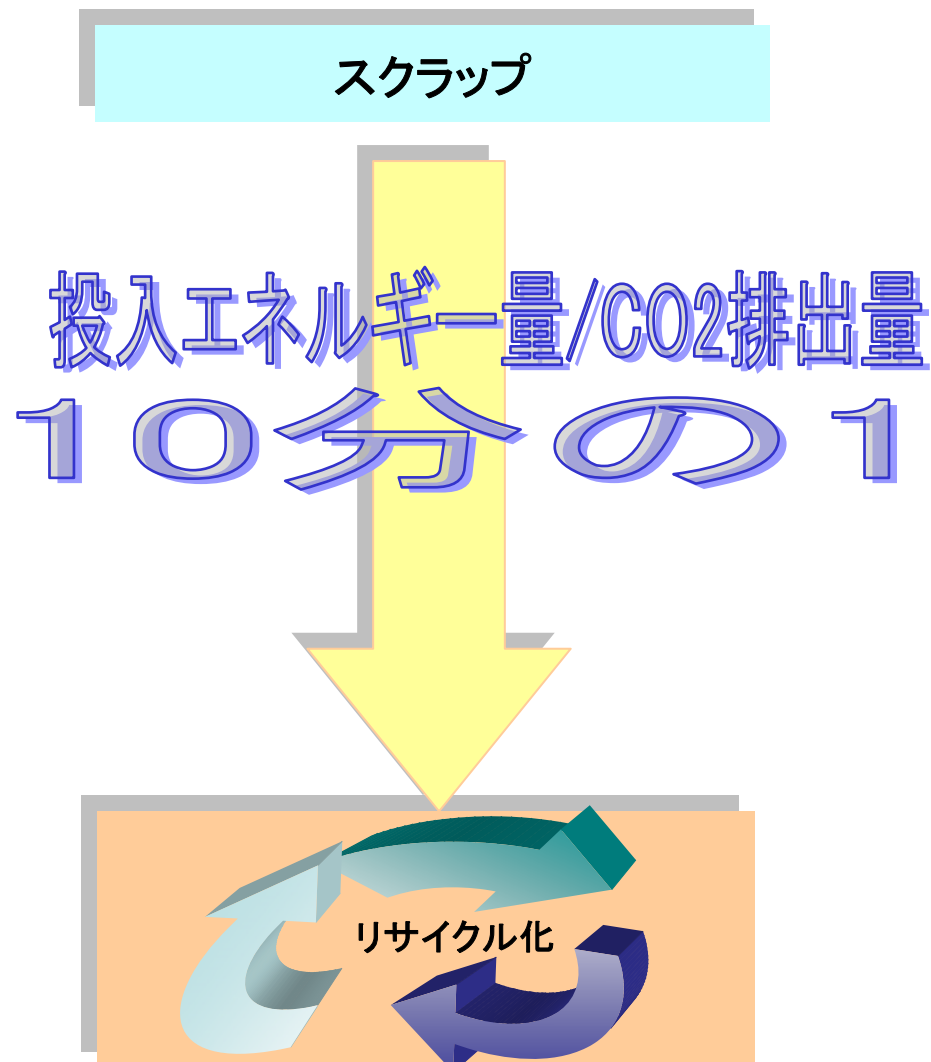
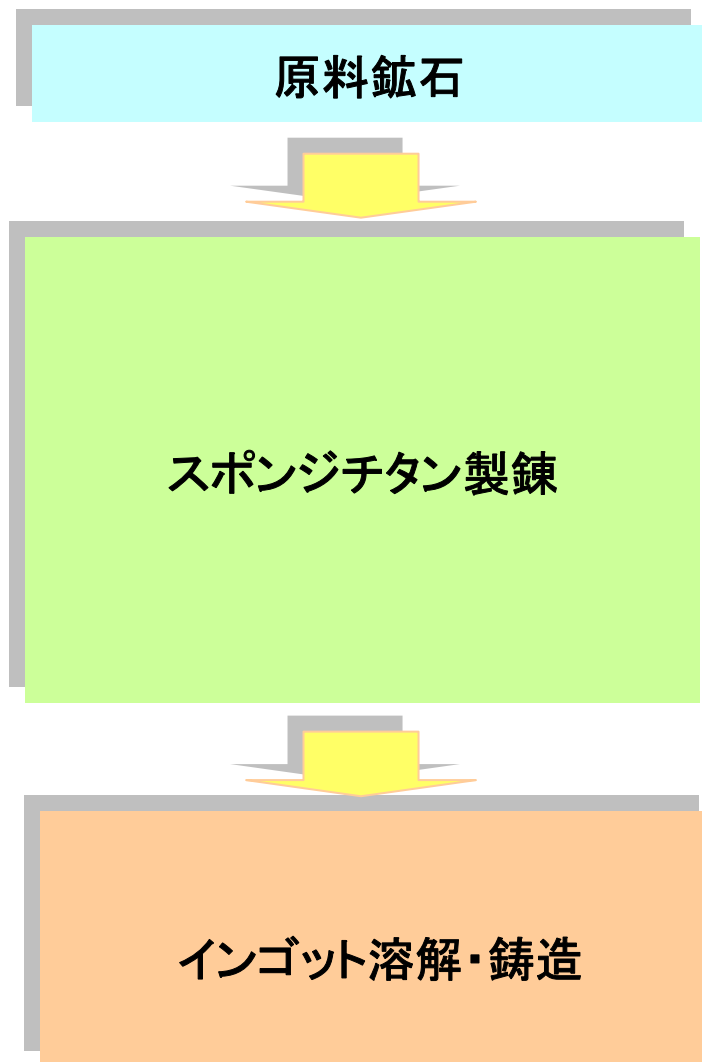


# ● 八幡工場

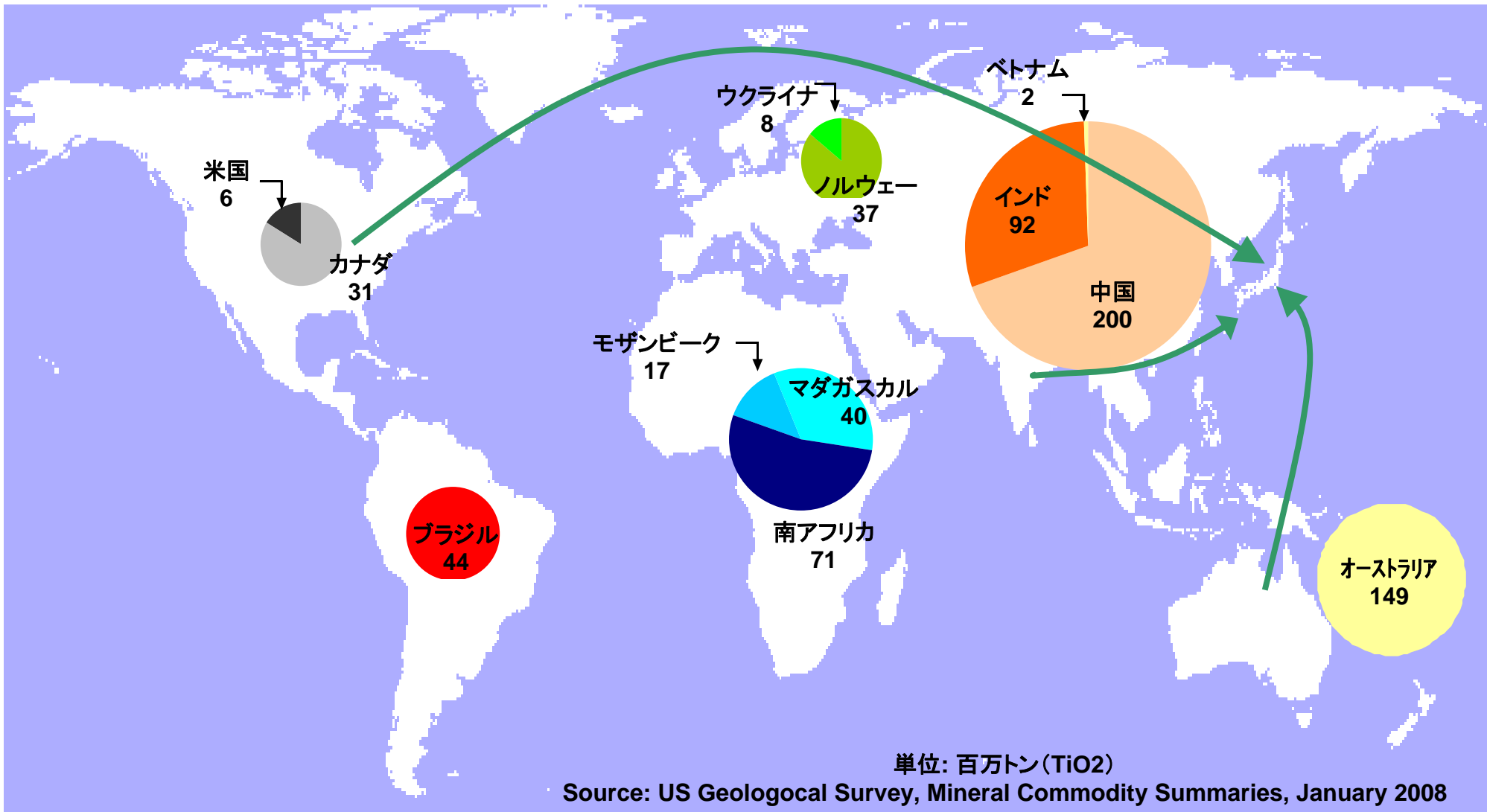
- 生産能力 10,000t
  - 2008年4月稼動
- 世界最大級の能力を有する大型EB炉  
→ 今後チタンリサイクルに大きく貢献



# リサイクル活用による地球環境への貢献



# ● 鉍石分布と当社の購入ソース



# 触媒事業

## 【事業環境】

- PP(ポリプロピレン)の需要は、5～6%/年程度の伸びが期待されているものの、世界経済の悪化により、現在PPプラントの稼働率が低下してきている。

## 【方針】

- 商品ラインナップ強化により、世界シェアの拡大を目指す。

# 電材事業

## 【事業環境】

- MLCC(積層セラミックコンデンサ)の需要は、2008年は電子部品業界の不振の影響を受けて数量伸び率は5~6%/年にとどまると想定されるが、中長期的には、9%/年の伸びが期待される。
- 中長期的には、MLCCの小型化が進行し、材料の小粒径化が進む。

## 【方針】

- プレミアムニッチ分野(小粒径など)への事業展開。

# 太陽光発電用ポリシリコンの事業化決定

- ◇新日本ソーラーシリコン株式会社設立
- ◇鹿島臨海工業地帯に新工場建設中
- ◇逼迫するシリコン太陽電池市場に原料供給

総投資額： 240億円

出資比率： チツソ 50%

新日鉱 30%

当社 20%

日 程： 第Ⅰ期 2008年 7月着工

2010年 4月稼動開始

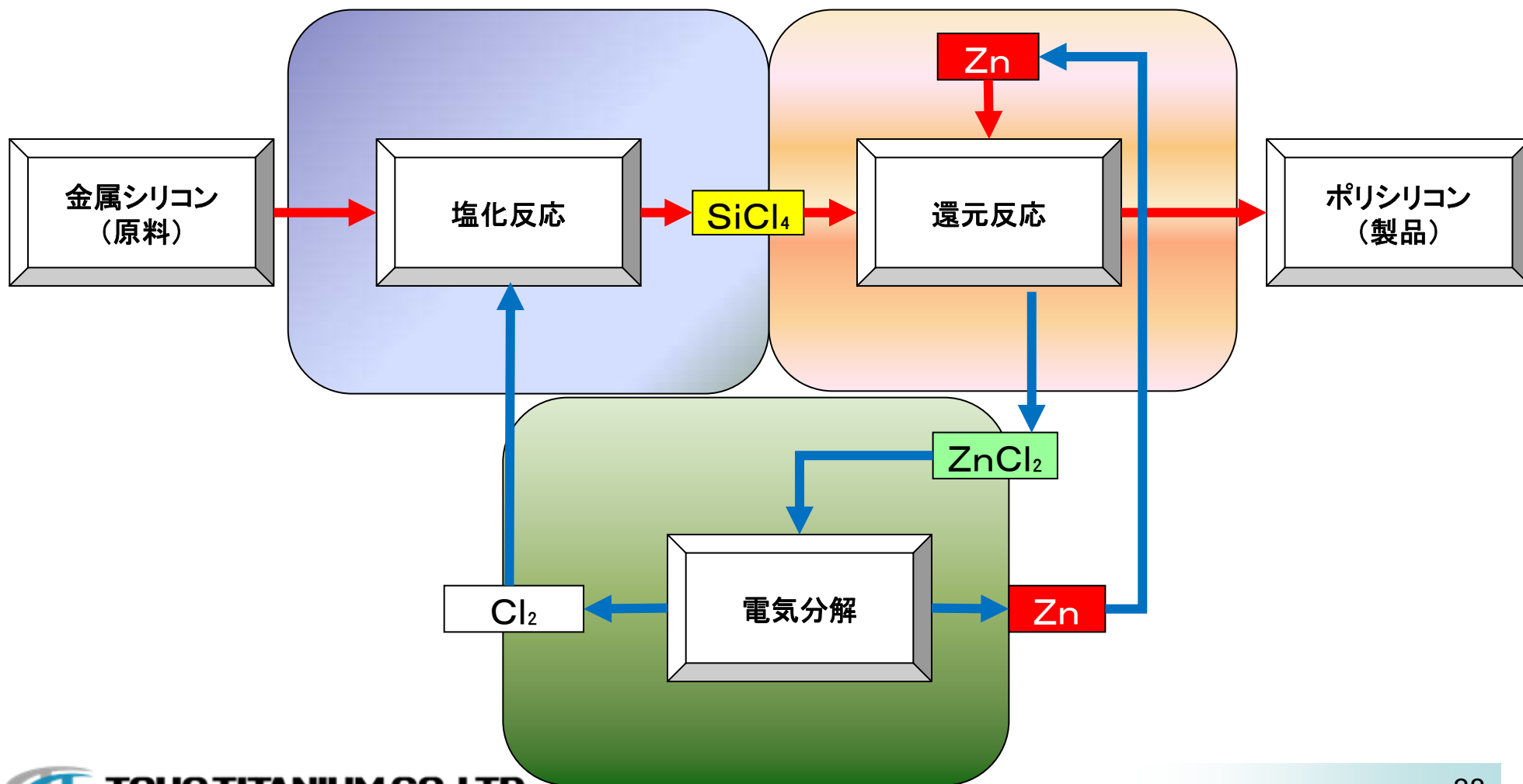
第Ⅱ期 2010年 上期着手予定



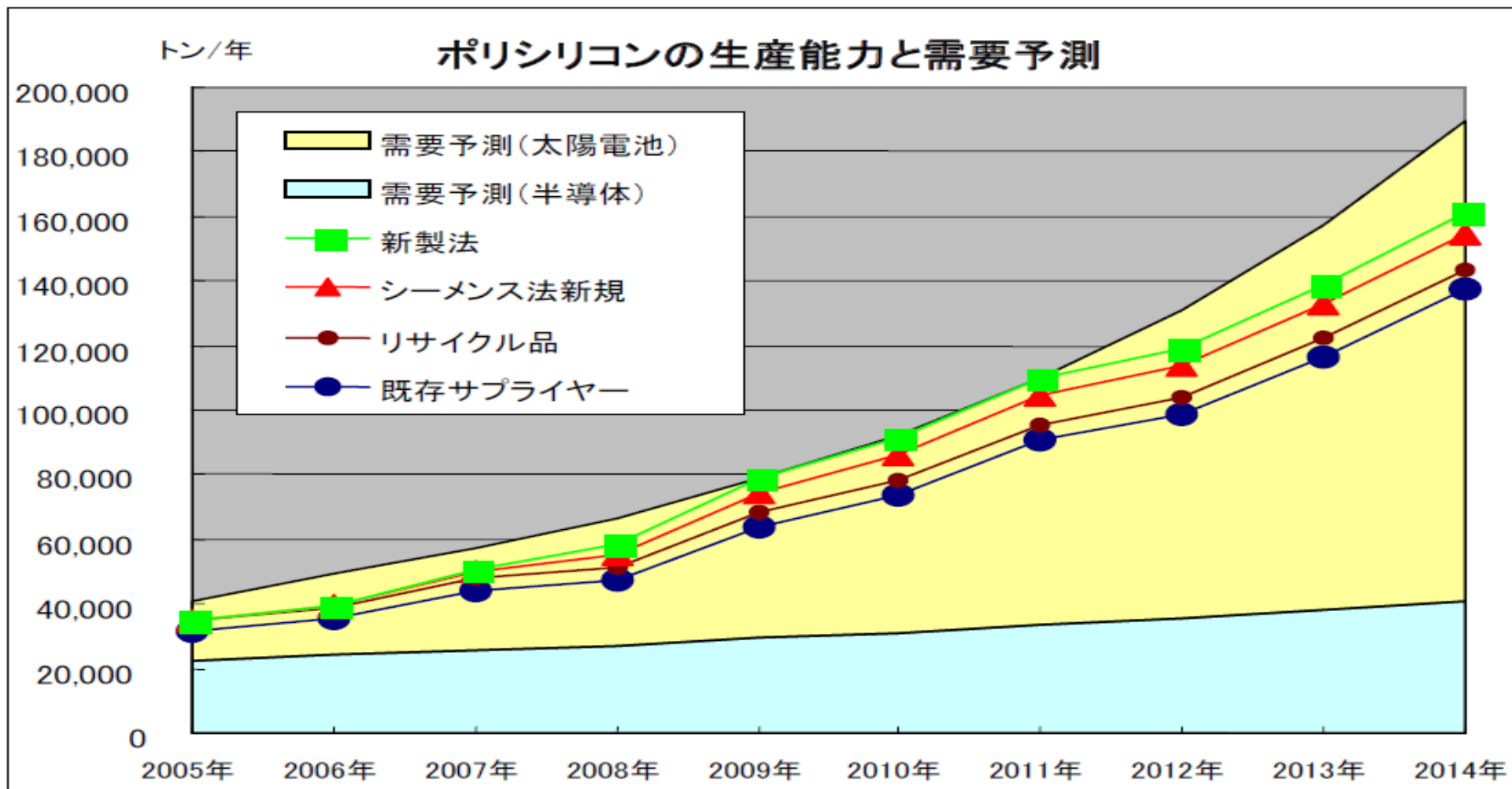
生産能力計画 : 第Ⅰ期:400トン／年、 第Ⅱ期:3000トン／年

太陽光発電の普及と地球温暖化対策の推進に寄与

# 独自製法により高品質・低コストを目標



# ポリシリコンの生産と需要予測



---

ご静聴ありがとうございました。

世界最強のチタン総合メーカーを目指す

東邦チタニウムグループ 経営理念

私たち 東邦チタニウムグループは  
地球に優しいチタンの限りない可能性を追い求め  
チタンを中心とした製品をつくり提供し続けることで社会に貢献します